

主催者あいさつ

大会長

樋口 雄一

(ひぐち ゆういち)

甲府市長



「日本女性会議2021 in甲府」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、あいち刈谷大会に続き、インターネットによる開催となりましたが、全国から多くの方々にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加いただきました皆様にあらためてお礼申し上げます。

甲府市は、戦国武将である武田信玄公の父、信虎公が1519年に市北部のつつじが崎に館を構えて「甲斐府中」甲府を開き、2019年には「開府500年」、そして、2021年には「信玄公生誕500年」と歴史的な節目を迎えたタイミングに、「日本女性会議2021 in甲府」を開催することができました。

甲府大会を振り返りますと、初日は、内閣府男女共同参画局長の林伴子氏による基調報告に始まり、続くシンポジウムには、東京大学名誉教授で社会学者の上野千鶴子氏をはじめ歴代の日本女性会議実行委員長をお迎えし、38年目を迎えた日本女性会議を、これからも継続していくことの必要性や今後の在り方などを確認しました。

大会2日目は、10の分科会をそれぞれ2部構成で開催し、参加したい分科会を、ご自身の興味や関心の高さに応じて幅広いテーマの中から選択していただいたことから、いずれの分科会においても熱心な議論や意見交換などが行われました。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長で参議院議員の橋本聖子氏に、「オリンピック・パラリンピックの意義とは～そのレガシーの発展と継承～」をテーマにご講演いただくなど、ご参加いただいた皆様の記憶に残る、大変意義深い大会になったものと自負しております。

閉会式のメインとなったバトンパス・セレモニーでは、次期開催地となる鳥取県倉吉市の石田耕太郎市長からご挨拶を賜る中で、甲府大会実行委員の思いを描いたメッセージボードをバトンとして、しっかりと引き継がせていただきました。「日本女性会議2022 in 鳥取くらし」が、多くの人々が倉吉市に集い、実りある大会となることを期待申し上げます。

甲府大会の開催は、県内外において、男女共同参画への機運を高める大きなきっかけになったと感じており、特に、多くの学生の方々にも参画いただいた分科会は、若い世代へ男女共同参画の理念を広められた一つの象徴となり、甲府大会の成果でもあります。

今後におきましては、甲府大会から得られた様々な成果を、令和4年度に策定する「第4次甲府市男女共同参画プラン」に活かし、本大会の開催目的である「男女共同参画社会の実現」と「女性が活躍する社会の実現」に向けた取り組みを推進してまいります。

結びに、「日本女性会議2021 in甲府」の開催にあたり、多大なるご協賛・ご支援を賜りました企業・団体・個人の方をはじめ、大会の企画運営にご尽力をいただきました皆様に感謝を申し上げますとともに、本大会を契機として、ご参加いただきました皆様のそれぞれの地域で、男女共同参画社会がますます発展いたしますことを祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

主催者あいさつ

実行委員長

風間 ふたば

(かざま ふたば)

山梨大学理事・副学長



「日本女性会議2021 in甲府」へ多くの皆様にご参加いただき、心より御礼申し上げます。

当初は対面を計画していた本大会ですが、コロナウイルス感染防止の観点から、最終的には昨年の「あいち刈谷」大会と同じくオンライン開催となりました。正直どれほどの方にご参加いただけるのかと心配も致しましたが、開催してみますと、日本全国それぞれの場所から、年齢も異なる1,500人を超える方々にご参加くださり、さらに大会プログラムのアーカイブ(録画)配信による再生数は1万回以上となりました。プログラムの多くをアーカイブ配信することにより、様々なテーマとそれに伴う課題や展望などを、大会当日だけでなく、時間をかけてよりじっくりと捉えていただけたのではないのでしょうか。本大会は「あいち刈谷」大会とともに、withコロナの時代における女性会議の新しい開催方法を示すことができた、と思っています。

さて、大会を開催するまでの道のりを振り返りますと、甲府への誘致の段階から多くの方のご尽力がありました。また、甲府での開催が決定後は、実行委員会を組織し、本大会のテーマを「未来へつながるまちづくりは人づくり～甲斐の国からともに～」とするとともに、大会の理念と5つの基本方針を決定し、それに沿って企画を進めてまいりました。

特に、10の分科会は、それぞれ2部構成で、合計20ものテーマで議論が行われました。多くの学生が分科会に協力し、活気ある議論の中で生み出された成果は貴重なものだと感じています。また、コーディネーターを務めさせていただいたシンポジウムでは、開催都市から返信いただいたアンケートを解析するとともに、近年開催した大会の実行委員長とのリアルな意見交換をおして、女性会議の「これまで」を振り返り「これから」を見つめ直すことができました。大会の歴史に一石を投じることができたと思います。

多様な人々が等しく人権を認められる社会の実現は、長いこと望まれながら、世界的に見てもなかなか到達できていません。性に関する差別の根は深く、簡単に覆すことは困難だからです。しかし、まずは一人ひとりが自身の中に潜むアンコンシャスバイアスの存在に気づき、課題を考え、小さくてもいいので何がしかの行動を起こすことから課題解決への道が始まります。そして、意見交換や議論を行う場があってこそ、連携することができ、その時代に沿った社会づくりに繋げることができましょう。そこにこの日本女性会議の意味があります。参加者一人ひとりが多様な価値観を尊重し、お互いを認め、「男女共同参画の実現」に向けてより前進できるのだと、大会を開催して確信できました。次期開催地であります鳥取県倉吉市に、この熱い思いが引き継がれることを願うとともに、コロナウイルスによる脅威を乗り越えての大会として、新たな歴史を刻んでいただけることを願っています。

最後になりましたが、「日本女性会議2021 in甲府」の開催に携わっていただいた全ての方々に、改めて謝意と敬意を表したいと思います。ここ山梨の甲府において、未来につながる男女共同参画社会の実現に向けた新たな連携の力、人づくりの力、となるのであろう皆様の今後一層のご活躍をお祈りしたいと思います。

本大会が新たな活動の契機となりますことを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。